

横浜市政を語る

横浜市長 飛鳥田一雄



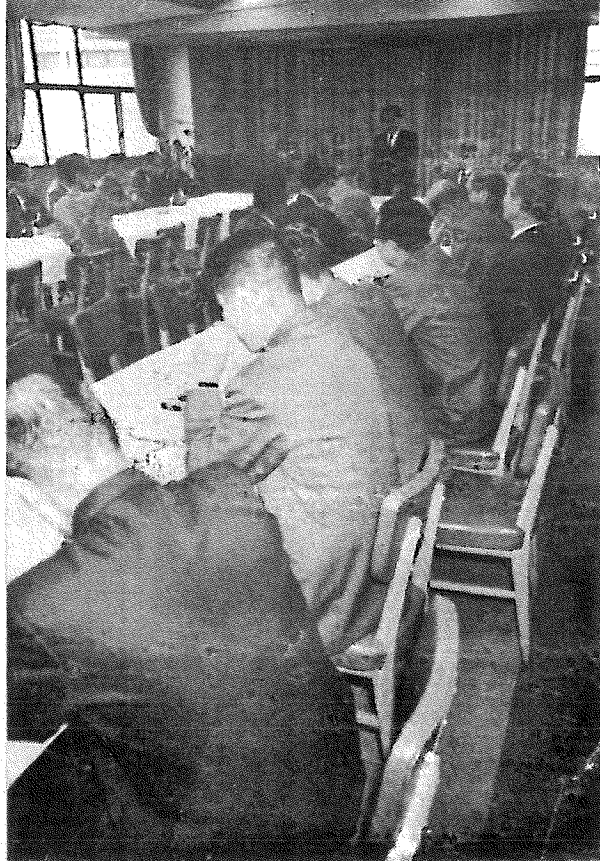
1963/4月当選



1963/10/19 講演

市中区南仲通5の60東京銀行ビル内神奈川県経済調査会 Tel 045-3131 (代)

NOV, 1963



研究会シリーズの刊行について

神奈川県経済調査会
会長 沖山 明一

ここに印刷いたします飛鳥田市長の講演は、当調査会の横浜市再開発研究会の第1回の会合（10月19日、横浜精養軒）のさいのお話を、当調査会の責任において速記したものであります。当調査会には、さきに御報告してごいます通り

- (1)本牧埠頭研究会
- (2)貨物輸送研究会
- (3)金融研究会
- (4)横浜市再開発研究会
- (5)対ソ貿易研究会
- (6)アフリカ貿易研究会
- (7)中小企業経営研究会

の7つの研究委員会を置くことになって居りますが、会員各位は御希望のいくつかの委員会に御参加いただき、講演、研究発表、討論などを行いますが、そのうちの主要なものについては、今後このような形式で印刷に付し、会員各位のおてもとにさしあげることいたします。またこの外、相模原および厚木におきましては、それぞれ民間の立場からの、地域開発の研究懇談会が準備されて居ります。他の地区におきましても、会員の御希望がごいますならば、当調査会の力の及ぶ限り、努力いたしたいと思っておりますので、事務局まで御連絡いただきたいと思います。

KY318

G 724

86

横浜市政を語る

横浜市長 飛鳥田 一雄

私がこれから御話しいたしますことは、横浜市の将来に関するものであります。今日は漠然とこちらに伺ったのでありまして、計画的な、キチッとしたお話しができるかどうか、甚だ心もとないであります。そうゆう点はお許を載きたいと思ひます。先ずそこで、漠然としたお話からさせて載きたいと思ひますが、私が横浜市役所に参りましたのが、丁度4月の23日でございまして、それから現在まで、私のやつておりますことは、一言に申し上げれば、今までの市政の中で滞つておりますものを、片づけていく、いわゆる残務整理をいたしておるつもりであります。と同時に、横浜市の行政組織を、今までのような状態から、市民の為に役立つ状態に切換えてゆきたいと考えている、この2つだけあります。将来の横浜市の構想については、現在部内で議論をいたしている最中でありまして、この事についてはまだ確とした確定案をお示するという訳には参りません。従つて、一つの試案としてお考えを載く、こうゆうことになるかと思ひます。

(1) 先ず内部の改革から

先ず第一に横浜市の行政組織の問題であります。まあごく卒直に申上げて、明治、大正とかけて出来上つてまいりました官僚組織、特に地方自治体の組織というものは、かなり問題点を蔵しておると私は考えているのであります。明治初年に、ご存知のように、明治憲法制定にさきがけて、市町村制、或は府県制という制度が施されましたが、これはその当時かなりほうほうとして起つてまいりました自由民権思想を逆に抑えて、後進国家としての官僚性を作る、こういうことから先手を打つた政策だと私達は考えております。従つて、日本に

於ける地方団体というものは、その地方に於ける住民の自治を促進する方法ではなくして、かえって、逆に中央集権の下部機構として設定された、こう考えられると思います。そうして、そうなるがゆえにこそ、農村から地租改正等、色々な点で吸収いたしまして、官僚的な資本主義的な育成を強行し得たのだらうと私は思っております。私は今その事について、どうこう議論をするつもりはございませんが、しかしその性格というものは、戦争を通じ、依然として現在の段階まで残っておるということだと思います。即ち、終戦を通じて、民主々義が日本に育ちましたが、それは丁度我々が上衣を着、外套を着るのと同じように、内部的には、かつこの官僚主義的なものを依然として蔵しながら、外被として上衣を着、オーバーを着た、民主々義を着た、というに過ぎないのではないだらうかという感じがいたします。私は少くとも、そういう関係をてん倒させたい。中へ入ってみて一番驚きましたことは、組織機構というものがすべて自己充足的に出来上っているということであります。端的に言えば、係員は課長の顔を見、課長は局長の顔を見、局長は助役の顔を見、助役は市長の顔を見て仕事をしてゆくのでありまして、その関係は非常に自己充足的な、市民との接触というものを考慮に入れていない関係のように思われました。しかし、問題は市の自治体をそれ自身が、市民の為に存在するとするならば、市民の側から物を考えてゆかなければならないのではないだらうか。こう私は考えまして、いまその改変に実は大重のつもりであります。例えば区役所について重点を置くというようなことを私が申し上げておりますのは、いたずらな変更を加えるというのではなしに、市民の側から物を見ようという一つの努力の現われだと考えております。即ち、市民にとっては、市役所が何処にあるかを知らなくとも、区役所が何処にあるかを知っている。市民の必要な行政事務の80%以上は、区役所が取扱っておるのであります。だとするならば、市民

に一番近い身近にある処に、市政なり、市の行政の重点を移動すべきものだとは私は考えておるのであります。まあいづれにもせよ、そうしたしとを、色々な点で試みているつもりであります。しかしこれは、機構内部の問題でありますので、従ってすぐ皆さん方のお眼にふれる部分は少なからうと思いますが、しかしこの事をやり遂げずして、本当の地方自治というものは成り立ち得ないだらうと考えております。しかしこの点についても、卒直に申上げて色々な障害があります。たとえば、横浜市役所の中に教訓があります。それは即ち「遅れず。休まず。働かず。」というのが教訓だそうであります。何か新しい仕事をしようとするれば、必ず失敗が伴うだらうし、失敗をすれば、もう出世をしない。従って、「遅れないし、休まないし、そして働かない。」ということが係長から課長へ、課長から局長へと上ってゆくショート・ウェイだということになります。こういう考え方、それはいま新しく、能率的に、市長の為に創意くふうを凝らして、イニシヤチブをはっきりして、仕事をせよという私の要求に対する、隠然たると申しますか、隠微なると申しますか、つかまえようとしてはつかまえられませんが、しかし全体の雰囲気として、抵抗をしている最大なものだと私は考えております。これは単なる命令、訓示だけで問題が終るものではありません。

もう一つの問題は、飛鳥田市政というものについての不信感であります。まあ飛鳥田さんは半井さんと田中さんの仲間割れの結果、突こつとして現われたものであって、この次は落っこっちゃうだらう。こういう感じをもっておる人もありますし、また立候補の経緯から照してみまして、私が余り市長という立場に執着をしていない。できれば早く止して、どこか市立大学あたりの講師でもしながら暮したいという感情をもっておるということが、かなり響いているようであります。この点私もかなり反省致しております。しかしそうした意味

で飛鳥田さんの市政がどの位続くかということが問題点のようであります。この間も8階の喫茶室へお茶をのみにいっておいしかったです、喫茶室に市長がお茶をのみにくるなどという事は、横浜の歴史上今だかつてないんだそうありますが、私のことに気がつきませんで隣のボックスで、「飛鳥田市政が8年続くか4年続くかを見究めてから、俺は動き出すんだ。」というようなことをしゃべっているのを、現に私は自分の耳で聞きましたし、にが笑いをせざるを得なかったということでもあります。いづれにもせよ、そういう市政について、私の市政についての不信感と一言にいいようだと思います。或いは日和見といっているのかも知れません。そういうものが、ピンピン横浜の市の行政組織を、機構を変えてゆくことに対する、一つの抵抗体をなしているということも私はいまよく感じております。今申し上げましたような「休まず、遅れず、働かず」という無気力な市政をどう市民のために役立つという意欲的なものに変えてゆくか、それに、飛鳥田市政が、どんなものか、見究めのつかないうちには動き出さないという自己保身主義、そういうものをどう打破するかが、私のこれからの4年間の仕事の基本をなすものだろうと私は信じておる訳です。何れにもせよ、そういう形でいま私は横浜市の行政組織を変えるということについてかなり必死であります。例えばお説教だけで、そういう問題は変らないとするならば、電子計算機を導入するとか、現在でも横浜市は計算機を持っておりますが、しかしまだまだすべての部分について計算機を利用するところまではいっておりません。パンチャーのお嬢さん達も、たしか10人か12、3人です。横浜市は一切の計算をやつてゆくとしますならば、恐らく30人から35人位のパンチャーを駆使するような計算機をもたない限り、科学的な政策というものは出て来ないだろうと思っております。いづれにもせよ、こういうものを導入することによつて、おのずからお説教ではなく、能率的な

ものに変えてゆくというやり方も必要でありましょう。いま計画局長にお願いしておりますが、マイクロフィルムを導入して、横浜市役所の中のどこの部室へゆきましても、ガサガサ、ガサガサ書類ばかりという状況なども、ただ見にくいというのではなしに、事務の流れを阻害しているように思えますので、そういうものも変えてゆく。そのことを通じて、市民に奉仕するための市役所の吏員達の勇気をどう作るかというようなことも考えなければならぬと思います。

或は給与の制度を変えるという方法が あり得るだろうと思います。私は市民の方々が、横浜市役所の連中は非常に高給だという批難をなさっていることをかなり耳にいたしますが、しかし少くとも、この人達が私のいうように動いてくれる限り、もっと出したっていいだろうと考えています。しかしいまの収入から考えてみますと、かなり限界にきているということも事実でありましょう。したがって、もし、この人達の給与改善をすることによって、もっと仕事がのびてゆくとするならば、同様に私達は他の方面で、市の財政を豊かにする方法も考えてゆかなければならぬと思います。まあいづれにもせよ、長いお話をいたしましたがこのことで、この6ヶ月間、私はそこに一つの重点を置いたつもりであります。幸いにして色々の点で、この頃になって、よい結果が現れて来つつあるようにうぬぼれております。例えば、先般も4、5日前であります、西区の代書屋さんが大挙して私の所へまいりました。あんまり区役所が親切になり過ぎたんで代書が喰ってゆけなくなっちゃった。どうも飛鳥田市政はサービス過剰ではなからうかというお話でありました。私は少くともアメリカとか、ヨーロッパとか、そういう文明諸国家で代書という制度がないことをよく考えて載きたい。もしあなた方が代書で喰えなくなったら、他の仕事について私達は考えて結構です。だが私は市民に対するサービス、市民

の立場に立ってものを考えるという、行政組織への方向を改めることは致しませんということを、かなりハッキリと申上げてみたのであります。いずれにもせよ、今後、この点について、色々皆さん方のお力を載く点が多かろうと思えます。どうぞ一つその点よろしく願いをいたします。

(2) 根岸線開通問題

第2の問題、すなわち横浜市の今迄残っておった、いわゆる残務整理の問題であります。これは、横浜市の再開発計画とかなりな関係をもっておると私は思っております。

先ず、最初に私が手がけなければなりませんでしたのは、根岸線の開通の問題であります。私が市長になりましたのが4月の半ばであります。国鉄の友人から電話がかゝってまいりまして、オイお前の方は気がつかないかも知れないが、国鉄では根岸線の工事をストップするぞ、ということであります。これは名前はいえませんが。私の学生時分の同窓でありまして、局長をいたしております。それは大変だ、何故だ、と聞いてみますと、補償がストップをしているので引けない。一方においては、東海道幹線が非常に赤字が出て、しかもオリンピックまでには是が非でもやり遂げねばならないということのために、横浜市の根岸線から資材及び人間を引っこ抜いて、東海道幹線に投入する計画がいま立ちつゝあるということでもあります。それは大変だということから、私は幹線工事局長の碓井君これは丁度私達と年配も同じでありまして、工学博士であります。碓井君に話しましたところ、8月までに問題を片付けてくれるのならば、このまゝ事業を継続してよろしい、若し、8月中に片附かないのならば、我々は引上げざるを得ない、こういっておりました。たゞ言葉のおどしだけではなしに、関内駅などをみますと、折角駅にはめました鉄の窓枠、サッシュなんかを、5月頃にはたしか外しておりました。そのまゝストップいたしま

すと、泥棒に取られてしまいますので、外して持ってゆこうとする、外す作業などを現に私は目撃しております。まあこれは堪らんというので、私自身が間に入りまして、盛んに和解を試みたわけでありまして。これも日石化学の方が、根岸、本牧等の埋立をお買いになりましたが、社長の方にお眼にかゝってみますと、もし1年遅れれば、3億ないし4億の損害だろうと、こういっておられましたし、私の労働組合の中におります友人が退職をいたしまして、80万ばかり退職金を貰いました。この80万を投じて、石川駅のそばに、小さな9坪ばかりのラーメン屋を作りまして、国鉄の開通を今か今かと心待ちに待っているわけでありまして。若しこれが1年遅れますと、折角投じた80万の家を待ち切れずに、売り払ってしまわなければならないだろう。こうして30年も40年も働いた汗の結晶が、1年遅れる為に、駄目になってしまうというようなこともございます。

いずれにもせよ、総合企画室に荒っぽい計算をしてもらいました処、1年遅れますと3.40億の損害が横浜市民の中に生ずるだろうということでもございました。そういうことで、かなり一生懸命やってみまして、残念であります。学習院大学の中川先生にお出ましを戴いたり、色々いたしました。未だに片付きません。そして既にもう1ヶ月半遅れているわけでありまして。この1ヶ月半の遅れはかなり響きまして、本日もその交渉をさせておりますが、明日は仮りに話がつきましても、大体来年の夏、初夏でなければ開通できない、こういう事でありまして。話がついてから大体10ヶ月、どんなにスピードアップしても、8ヶ月以内にはできないだろうということでもあります。甚だ力の及ばない事は申訳ないと思いますが、私としては、全面的に努力をいたしてまいりましたし、恐らくはちかいうちに妥結ができるだろうと考えております。これは国鉄と当事者の関係でありまして、横浜市が介入すべき筋合ではないのであ

りますが、市民の立場という点からいつて、これは解決しなければなりません。これは今までの残務整理であります。

(3) 本牧地区は全面接收解除

更に同じく残務整理でありますが、本牧の小港に、ご存知のような接收地がございます。この接收地の解除をありていに申し上げますが、今までは殆んど政府に対して本気の交渉というものをしていなかったように私は思います。これはチョットいいにくい事ではありますが、従ってこの本牧の接收地、根岸の接收地、これらの問題を片付けませんと、横浜市の新しい開発という点にかなりの障害がまいりますし、市民としても、かなりの損害があるだろうと思ひまして、私はご存知のように、市役所の中に渉外部という新しい部を作りまして、そして専門に接收解除だけを取扱う部門を作ったわけであります。しかし私もご覧のような立場でありますので、独走してもいかならう。こう考えまして防衛施設庁の課長でありました森君という人を連れてまいりまして、部長にいたしました。そして一諸に今までの滞りを回復すべく交渉を開始いたしましたのであります。防衛施設庁というのは、昔の調達庁のことです。調達庁を通じて政府交渉をする、こういうことをいたしました。私は米軍の方々とかなり広々おつきあいをいたしまして、時によつてはいっしょにのんで歩くというようなこともいたしました。たゞしごちそうはいたしません。向うが一ぺんおごつてくれれば、こっちも一ぺんおごり返すという、あくまで対等の立場であります。そして横浜市の発展に障害を及ぼす基地は、どいてもらいたいという私の立場を彼等も理解してくれたようであります。そして今後是非アメリカへ来いなどというから、そんなさそいの手には乗らんとじょうだんをいうのであります。

その結果は、彼等の意向としては、本牧地区は取払ってよろしい、そして本牧地区に大体今 1,700 戸おりますが、この 1,700 戸の内約 400 戸位が座間

の基地内に移動する。後の 500 戸位が、横須賀へ移動する。そして残ったものを根岸の方に移動する。こういうようなことを彼等が考え、決定をしたようであります。なおもっと努力をして、もつてゆけるところがあつたり、もつてゆけるように調査をする、こういう風にいております。いずれにせよ、その結果は本牧地区は全面解除という結果になるのであります。そして本牧地区の中には、もち切れずに調達庁に買つてくれといて、調達庁に買上げてもらつた坪数が料 9 万坪位あります。これは国有財産であります。国有地になっているわけです。この 9 万坪を、向うの根岸地区に 8 万坪ばかり私有地があります。また持っていらっしゃる私の土地があります。従って、区画整理をやりまして、本牧にありますが 9 万坪を根岸の上へもって行って、根岸の個人の所有者達が本牧へ降りてくる、こういう形にいたしますと、土地交換をされるわけです。それは根岸よりも本牧の方が土地としましては高価でありますから、恐らくどの方々もみんな喜んで下さるだろうと思ひます。こういたしますと、根岸はなるほどまだ米軍の基地は残りますが、しかし全部国有地になるわけでありましてから根岸、本牧両地区に関して、横浜市民は全面解除を受けたという結果が生じるだろう。こう私は思っております。そして全面解除を受けました後は、区画整理を行いまして、本牧の埋立即ち工場地帯と、この中心地とを結ぶ経済的な任務に堪えられるような街区形成をする、こういうことを考えまして計画局の方でその精密な地図も既に出来上っております。たゞしこれは実は皆さん方に申し上げると、又土地の値上りが始まりまして、思惑買い、思惑売り、そういうものが生じまして、本牧地区の土地相場というものをこわしてしまいますし、又色々な議論が出てまいります。したがって残念ではあります。詳細な点については、市民の方々に御覧に入れておりません。従って、本日もそのこまかい御説明はご勘弁を戴きたいと思ひます。しかしかうゆう風に運んでまいりました処、かなり重

国有地 43.1ha → 32.4ha

44支
会
計
部
長
の
話
だ
い

14支
道
路
？

大な障害が今現に出つゝあります。と申しますのはこれは私が国会などで盛んに文句をいった処なのでありますが、行政協定に基きまして、そういう移転の費用というものは、全部日本政府が負担しなければならないことになっております。こんなバカな話は私はないと思うのでありますが、日本政府が負担しなければなりません。

ところが本牧から移動をいたしまして、新しい宿舍を造りますには、どう見積りましても、100億の金が必要なのであります。100億の金は、防衛庁の防衛施設庁即ち旧調達庁が到底支出することは不可能であります。と申しますのは、調達庁の予算と言うものが、年間100億位でありますから、これで100億の中から金を出すなどゝいうことは到底できません。従って、大蔵省の予備費の中からでも出してもらふ以外には方法がないだろう。こう私は思っています。

米軍の方は、私の方に、1年位で移動してくれんかといっています。ところが大蔵省の方は、3年以上かけなければ駄目だ、といっております。それはそうです。100億のお金を、1年で出せば100億要るわけです。3年で出せば30億で済むわけです。しかし、その30億でさえ、いま大蔵省は、二の足を踏んでおりまして、ようやく私達の交渉の結果、本年度は調査費という形で2,500万円ばかりの金を計上する。即ち予算の中に頭を出したということに止まってしまうようなおそれがあります。これはかなり政治問題でありまして、大蔵省は私に、横浜市で出せ、こういうのであります。バカなこといっちゃ困る。とにかく横浜市は今まで10数年他都市に比べて接收を受けておったというだけで、莫大な被害であって、これは横浜市民が望んで行っていることではないのであります。まあ政府の要請に基いて、そういう結果になっているのであって、その上なお且つ30億、50億出せなどといわれたって、そんな事は到底できない。何れにもせよ、米軍の側はようやく話がつきまして済んだのでありますが、今

度は対政府の関係で100億のお金をどうするかという問題に今変りつゝあります。この問題はまあ総選挙でも済みませんとちよっと処理ができないだろう、と思います。総選挙が済んでしまいますと、既に御存知のように12月でありますから、大蔵省の予算は既に内部的には出来上ってしまっているだろう、こういう意味で1年嫌でも応でも遅れざるを得ないような政治情勢に入っていました。私も政治屋でありますから、解散なんてのは大好きであります。しかし、この本牧問題に関する限り、解散は今非常に困るということになります。先般藤山さんにもお眼にかゝりました時に、そういう関係であるから一つ貴君の方から御配慮載きたい、ということもお話申上げて置きました。

それから河野一郎氏にも先般会いまして、「よう、どうしたい。」なんていいますから、いやどうしたもこうしたもない、充分困っているから一つ頼みますといったら、彼も非常に真剣な顔をして、最大限度に努力して見ましよう、ということをお願いしました。そういう意味で、この二方は総選挙の結果の如何を問わず、かなり努力をして下さるだろう、こう思っております。しかし残念であります。そこまで追いつめながら、最後に長蛇を本年度としては逸したような感じが私はいたして残念で堪らないのであります。しかし何れにもせよ、横浜市の接收解除問題というのは、過去10数年間、横浜市が悩んできた問題でありまして、これについての残務整理をいま急いでおる、こういうことであります。本牧の埋立にいたしましても、ここの地区を私達が考えているような経済的使命をおった街区に代えません限り、それは役に立たないと言っても過言ではなからうと思います。そういう意味でこの点についても色々党派の問題もありましようが、ご協力を戴きたい。こう考えております。更に小さな問題でQMラウンドリーの問題とかミルク・プラントの問題とか亀住町の倉庫の問題とかそういう接收解除の問題も進めております。少しずつ曙光がみえて

きたような感じがいたします。次に南区の屍体処理場を先般接收解除してもらいました。

(4) 戸塚、桜木町駅前の整理問題

更につづけて、戸塚区の駅前の区画整理の問題も残された問題であります。この計画を立てましたのは、平沼さんの第1期の時でありまして、丁度今から10年前であります。区画整理を施工する。これはもう、ご覧のように、戸塚駅前の混乱を解消せずに、横浜の新しい発展というものはあり得ません。後から横浜市の性格についていさゝか申し上げますが、新しい横浜、そういうものを私達が考えて参ります限り、戸塚駅前というのはいさゝかの重点だと私は思っています。10年間計画は立ちましたが、依然として進行しない。土地内部に於ける政治的な対立、或いは利害の対立、或いは或る人々との利権、こういうものがうず巻いていたのであります。幸いにして、私は今までの方々と違って、スパット代りましたから、そういう利権だとか何とかというものが全然素知らぬ顔をして、ズバズバやれる立場でありましたので、こゝでこの事のけりをつけたい、こう考えて努力をいたしております。それには、チョット詳しい説明を申し上げませんとご理解戴けないのでありますが、賛成する側も反対する側も、どの方々も共通した問題として、吉田ワンマン道路の開放ということ、有料道路からの開放ということ、かなり強調しておられます。この問題ができれば、少くとも区画整理は着手できるという見通しであります。そこで、ワンマン道路の開放を政府に私は何遍か要求いたしました。幸いに道路公団の方でも、或は建設者の次官、今度辞めましたけれども山本君が次官でありましたが、山本君とは学生時分からの知り合いでありますし、衆議院におりました頃も、友達づきあいをしておった関係にありますので、いって「山本君一寸頼む。」と、こういいましたら、「何かもってこいよ。」と、とじょうだん話をしておりまし

たが、「いやおれはもってこないよ。」てなことって色々話をいたしました結果、いゝだろうということに大体なりました。たゞし、問題は変わってきます。すなはち政府としては、これを幅を2米広げるといことが条件だった。公団の時に2米広げますと、広げた費用を取り戻すまで解除が遅れるわけです。横浜市の手でこれを広げれば、広げるという約束をすれば、すぐ解除してくれるという、ほゞ見通しがありますが、大体2米広げますと、6億かゝります。6億を、これは国道でありますから、3分の2は国がもち、3分の1を市がもつ。すなはち横浜市としては、2億考えてゆけばよろしいのであります。いずれにせよ、この問題もいま総選挙にからんで、チョット時間待ちという形になりましたが、総選挙が済めば、直ぐケリを附けることができるだろうと思います。こうして戸塚の区画整理も、どうやら手が付きそうであります。戸塚の駅前の区画整理が若しできるといたしますならば、横浜市の開発の形式というものは、かなり違ってくるだろう、こう私は楽しみにいたしております。しかしまだまだ土地の人々の間には、どうなることか、賛成、反対という色々な疑問がわだかまっているようでございます。先般も商店街の代表者と称する或る派の方々が私の処へ見えまして、一体市長は如何ゆう考え方なんだ、今までの市長さんはこれをやらなかったが、といいますから、僕は自分の市長の責任に代えて断行する。そのことによって僕自身がいくらか傷ついていてもかまわん、こうはっきりいって置きました。しかしなかなか困難が多かるうと思いますので一つ皆さん方にも色々な関係で、あの戸塚駅前のかかなり広範な旧街区といふますか、古い町を新しくリビルディングすることについて、ご協力戴きたい、と思えます。又同じような事が、野毛、桜木町駅前に出てまいっております。野毛の露店商、この問題も実は10数年前からの横浜市のガンであります。私は少しこの問題が無鉄砲に解決しようと考えまして、一つのプランを持ち、先般津田副

知事にも会いまして、津田君一つこういう点でやるから協力してくれんか、こういいました処、いゝでしょう、私達もできるだけ協力申し上げますということで、今進めております。なお恐らく1.2ヶ月の中に新聞にも或程度発表することができると思いますし、皆さん方にもご批判を戴けるだろうと思います。即ち野毛の露店商を取外してしまうということであります。と同時に、桜木町駅前の桜木デパートその他の問題を処理する。こういうことあります。そしてその上に立って、来年の根岸線開通後に、桜木町駅前の扱い方を私は決めるつもりであります。根岸線が開通いたしますと、桜木町を利用する数がかなり減るのではないだろうか、今交通局に調べてもらいますと、大体3分の1位の乗降客が関内駅に移動するだろう、こうゆう風にっております。或いはやってみないと判らないのでありまして、半分になってしまうかも知れません。若し桜木町を通る方が、現在の半分になるとするならば、桜木町の駅前の規模は、それに合わせなければなるまいと思います。今のまゝでありますならば、旧中区役所の建物も桜木デパートもあの前の一切のものを取払って、かなり大きな駅前を作らなければなるまい。それでバスのターミナル等も作らなければなるまい、こう考えております。そして関内駅の乗降客がそう多くないのならば、関内駅に於けるバスターミナルのようなものも、規模を縮小していゝだろう。こう実は考えております。横浜市役所の裏に防災街区と申しますが、共同建築を建てる予定であります、これは国大の河合助教授などにもご相談いたしまして、あそこに於けるバスターミナルの大きさというものを、いま測定しております。この2つは、こうお互にバランスをもっておりますから、根岸線の開通という時点に合せて、私は決定をして、即刻工事にかゝりたい、こう考えておるのでありまして、それまでの準備工作として、野毛の露店街の問題と、桜木デパートその他の問題は解決をして置かなければなりません。そういう意味

で、この問題については川崎総務局主幹を専任に当てまして今解決に急いでおるわけでございます。これもいままで約10年間位滞っておりましたものを、こゝで思いきって切ってしまうということでもあります。そして同時に桜木町駅前が、どう造成されるか、野毛がどう新しい商店街或は街区として、生れかわってくるか、日の出町との関連性をどうするかという、桜木町からあそこへかけての問題は、横浜市の再開発の問題としても、かなり重要な点だろうと考えておるわけあります。同時に、これにからめて、大岡川と申しますか、或は吉田川というか、こういう問題の処理も考える。同時に道路の事を合せて考えてゆかなければなるまいと思います。道路のことは、後で申し上げたいと思います。

(5) 横浜駅東口の問題

更にもう一つの残務整理、イヤに残務整理ばかり申し上げますが、大事なことでありますから、お聞き戴きたいと思いますが、横浜駅の東口の問題が残っております。此処にどのようなものを造り上げるかということは、かなりの重要な問題でございます。私個人の考えをいえとおっしゃいますならば、私はあそこに建物を建てたくはないのであります。あそこにあります、県の新興会館ですが、あれも県から譲ってもらい、これを取払い、横浜駅前にはかなり広大な広場を造るべきものだろう、これを公園の形式にしても結構です、樹木を植えて少くともリスが野生できる程度のものにするのもよいかと思ひます。何れにもせよ、そういうものにして、将来に備えたいと思ひます。卒直に言えば、高島の機関区、三菱ドック、この問題もやがては何んらかの形で改変を加えなければならぬ処でありますから、従って若しそれらの問題が解決をいたしてまいりますと、横浜駅前の道路が直線ではなく、三角形の二辺を走っていることについては、かなり問題があります。これは私だけが申し上げるのではなし

に、東京大学の今野源八郎教授とか、中央大学の大島教授とかいう方々もほとんど私と同様にご意見をもっておられ、横浜駅前を広くすべきだというご意見であります。そして道路も一直線にすべきだというご意見であります。私もそうしたいと思っておりました。ところが私が市役所にやって来てこれまでの書類を色々調べてみますと、もはやこれは取返しのつかない段階までいっております。即ち駅前振興株式会社という会社にもう売却済でありまして、その内手金1億がもう入っておるのであります。そして後のお金が遅れておりました、私はかなりズケズケ催促をいたしまして、この10月2日だけに2億3千万円の、次の代金を戴きました。しかし、いずれにもせよ、もう売却済でありまして、これを契約解除するということは今の段階では不可能であります。そこで唯一つ契約書を、私も法律屋でありますので、調べてみますと、あんまりうまくない契約書でしたが、しかし、その中で、第三条に駅前の環境にふさわしいような計画を立てるということが条件にありまして、そしてその計画は横浜市が承認した時にやれるという約束になっておりました。従って、私の方はもう売ってしまったものはどうにもなりません、しかしそこに会社がお建てになるものについては、少なくとも我々が承認をするという条件を100%に利用できるだろう、こう思っております。もちろんこれは営利会社でありますから、営利性を全然無視して1銭もうからないような建物を建てろという、そこまでは私達もチョットいえなかならうと思いますが、公共性と営利性を兼ね合せて、尙且、いくらかでもその会社がもうかってゆくという限界は利用できることと私は思っております。既に第1次案ができ、その第1次案が駄目になり、今第2次案が私の手元に来ております。私は今これを検討いたしておりますが、私は少なくとも、あそこにボーリング・センターとか、アイス・スケート場とか、プールとかいうアミューズメントセンターを許す気持ちに絶対なれません。

何も横浜駅前にアミューズメント・センターを造る必要はないのではなからうか、もう少し公共性があるてよろしい、こう実は考えております。点について会社の方ともう少し話し合いをいたしまして、次善の策として、少なくとも駅前にふさわしいようなものを、と願っております。これは願っているのでありまして、できるというお約束ではございません。若し本当によきことをとおっしゃられれば、売らないことがよろしいので、そしてこれを大きな公園にでもし、広場にでもしておくことがよろしいのでありますが、しかし私はいま次善を求めようと考えております。この問題についても、今年一杯には整理をしまいませんと、会社の方も堪らんわけです。既に横浜市に3億3千万円のお金を払込んで置きながら、いつまでたっても建てられないでは、これは会社の方も大変です。私は別に会社の味方のつもりはありませんが、その点は会社に対してご迷惑のかゝらないように、早急に事を運びたいと考えております。この場合も卒直に申上げて、私でよかったという印象を実はもっております。ご存知のように、桜木町駅前の問題も、比叡の問題も、この東口の問題も卒直に言えば色々な因果関係が入り乱れて、黒い霧が立ちこめておったというのが現実であります。しかし私は、それらに一切、無関係でありますから、私は私なりにズバズバと横浜市民の利益に於いて処理をしてゆくという風に考えておりますし、できるつもりでおります。ずいぶん長いお話をしてしまい恐縮ですが、こんな残務整理をいまやっております。少なくとも私はこれが全部解決できるとは思いませんが、然し私の最初の1年度の中で、これらの問題が既に解決に向ったという事実だけを作っておこう、こう考えております。卒直に申上げて、今迄のお話をお聞き戴ければほぼ解決に向いつゝあることはご了解を戴けると思いますが、しかしもう少し進めて、もう放って置いても係の人々がドンドンその方針さえ踏襲してくだされば解決できるという方向を、1年以

内に出してしまい、そして、その解決が新しい横浜市のプランの基盤になってゆかなければならない、こう私は考えておるわけであります。くどいようですが第1が横浜市の行政組織を市民の為めのものにするという、機構改革と申しますか、体質改善と言いますか、真実の民主々義を横浜市に作るという方向が1つ、もう1つは残務整整理するということが1つ、こういう風に私は考え努力をしてきたつもりであります。そこでそれでは横浜市について今後どういう方針を取るのかということになってまいります。

(6) 今後の横浜市をどうするか 横浜市の3つの性格

ご存知のように、横浜市は明治の頃において港湾都市、即ち商業港でありました。そしてそれなりに非常ないんしんを持っていたわけであります。大正の後期から、即ち第1次欧州大戦、日本の独占資本が非常に高度な段階に到達しようとする端著の段階に於て、名市長であります有吉さんが、横浜市に工業都市としての性格を附与しようとなさったのであります。これは卒直に言えば、横浜市の為には私は少し遅かったと思います。しかしこの事についてお気づきになりその歩みを踏み出された有吉市長は、少くとも横浜の歴代市長の歴史の中に最大の地位を占めらるべきものだとは私は信じております。と申しますのは、横浜が商業港から工業港に転換しなければならない時期というものは、卒直に言えば、第一次欧州大戦の前であったと思います。まあ、この当時は、横浜市は真田ヒモとか何とかいうような手工業的な工業を持っていましたけれど、しかし近代産業、近代工業というものに転換するという意図を、残念であります、財界の方々が持っていらっしやなかった。そのために第一次大戦のパンニックと言うものをまともに受けて、多角経営をいたしておりませんから、輸入輸出、問屋さんの方々の大きな打撃というものが発生したと思います。もし第1次欧州大戦以前に、横浜市において工業化の方向が取られておったのならば、その

以後に於て神戸に追い越されるというような状態は、私はなかったろう、こう考えているのであります。こゝにいつか私も何か物を書いてみたいと思っております。横浜経済史の中における横浜商業資本の性格と言いますか、そういうものの特徴があると思います。幸いにして朝鮮総督府の何とかいう偉い立場と辞して、比処へこられた有吉さんが、小さい横浜という枠内で物をお考えにならずに、工業化の第一歩を踏み出されて、鶴見の埋立、或いは大黒町の埋立等々かなり積極策をとられ、その策はその後の市長によって継続をされて、工業都市としての性格を横浜市はもってきたと思います。商業港から工業都市への転換が行なわれ、これが戦争中を通じて、或いは戦後の初期を通じて港湾工業都市と申しますか、そういう方向になって統一されていくという形になったと思います。しかしいま私達は新しい横浜の性格を外部的に、嫌応なしに押付けられようといま致しております。港湾工業都市にプラスして1,000万の東京の人口がいま湯舟から水の溢れるように横浜市に流出しつつあるのであります。港北或いは戸塚、こういうところでは、ベッド・タウンとしての性格をもっております。この横浜駅から東京に通っておられる人達は30万を越えるそうであります。こうして実は、横浜に来て寝ることは寝る、飯は喰うけれども、明るい日中は東京へ行って経済活動をする。こういうような形で、完全に横浜はベッド・タウンとしての性格を余儀なくされているのであります。このことは、チョット横道にそれますが、市の行政にとっても非常な苦痛であります。今までは下川井などというところは保土ヶ谷であります、農村であります。学校せも教室か8教室あればよろしい処だったのですが、怒濤のように浸透して参ります東京都民、この都民の為に25教室の学校を造らなければなりませんし、水道は引いてやらなければならない、道路は造ってやらなければならない、こういうことであります。それだけではないのです。市の行政を無

計画，無性格にしてしまうということであります。横浜市は1年度の当初に，ご存知のように予算を組みます。この予算はその1年間に於ける，例えば土木なら土木の体系的な計画であります。水道についてもそうであります。道路についてもそうであります。市の責任者達は，そして現場の職員達は，智慧をしぼつて，今年は彼処を直して，比処を直して，こういう風にやろう。そして，それは将来の計画にこうむすびつく。こう考えて作るのではありませんが，ところが突こつとして大団地が現れ，それは横浜市の意志ではないのであります。突こつとして新住宅集団が現れ，市議員の方が来て，あそこに道路を造ってやれといわれます。実際人が住んでいるのでありますから，まさか造って上げないわけにいきません。こっちの予算を切って，こっちにもってゆく。あそこに水道を引いてやれといわれます。止むを得ません，別の予算を切って，そっちへもってゆく。こうして年度の当初に立てた，こうやりたいと願っている計画は，実は流入してくる東京都民の為に，ズタズタに寸断され，やがては，あちちバンソウコウを貼り，こっちにバンソウコウを貼るという，無計画さになってゆくのではありません。こうして都市のプランというものは，洪水のように流れ込んでくる他都市の住民のために，ジュウリンされてしまうという現状であります。こうなりますと，来年も又そうだろう，いゝ加減でツカミで予算を組んで置けばそれでよろしいという無気力さに現場のいわゆる現業の横浜市吏員はなってしまいます。そしてそのことは，それだけに止まらず，一般事務部門に対しても，横浜市行政の計画的遂行というものを，いつか無秩序なものに，行当りバツタリ主義に引戻してしまうという影響をもっております。そういう意味で，ベッド・タウン化というものは，鎌倉のようにベッド・タウン化が完成してしまえば別であります，その進行してゆく過程に於ては，市はその科学的な体系性を寸断され，吏員の意欲を減サイされ，そしてあちらこちらと，

その日その日に追われ，行当りバツタリズムに終らざるを得ないという，かなしい現象が，私達の眼の前に起っているのであります。これに対し，如何に抵抗すべきかが，今私達にかなり問題だと思ひます。いずれにもせよ，そういう意味でベッド・タウン的性格として，この性格はもう横浜市民が好むと好まざるに拘らず押付けられた，しかも最も強烈な性格として，受取ってゆかざるを得ないのであります。従つて，港湾都市，工業都市，ベッド・タウン，この3つの性格を，如何に我々がこの横浜市の中でハーモニーさせていくか，割り切つてゆくか，その決断に今や迫られている時期であります。こういう風にお考え載いて多分間違いなからうと私は思っております。この何れにポイントを置くか，この問題を私達は早晩に決定をしなければなるまい，こう思っております。そういう風に難問なところを解決し，市民のかたがたの御協力をいただくために，市民生活白書というものを作ろうとし，そのために若い学者諸君を約30人ばかり集まってもらいました，そして委員にいたしました。こゝにおられる高見君も，その委員の一人になって載いておるわけであります。私はどうも官庁の集める学者の方々は，東京大学名誉教授とか，何々大学名誉教授とかいう大物を集め過ぎて実際の仕事はできないという感じがしておりますので，少くとも年令が私より以下の先生方，こういう事を考えてお願をしたつもりであります。そして若い中堅の方々にお集りを載いて，新しい仕事をバリバリやろうと思っております。しかし私達もかなり親しい方々であります，従つて親しい方々でありますから，そういうことをいうと身ビイキにするとおっしゃるかも知れませんが，日本の学界の少くとも第一線の人達に集まってもらつたつもりであります。この人達にできる限り精密な討論をしてもらい，どの部分にストレスを置くかを，これも年内に，私の最初の1年以内に決めなければならぬ，こう思っています。1度これを決めますれば，私は何期やるかわかり

ませんが、少くとも私以外の市長をも拘束する危険もありますので、かなり科学的に慎重にいたしたいと考えております。いずれにせよ、そういう問題の中で都市の再開発を如何にしてゆくかということではありますが、これについて、私達は考え方の基本としてこういう事を考えております。

(7) 都市基本構造を強化 但し工業化に限度

第1には都市力の基本構造の強化、それは即ち経済基盤を強化することです。この経済基盤強化の問題は、既に、有吉市長から始まって、半井さんに至るまでの間に、かなりの業績が上っていると私は考えております。臨海及び内陸工業地帯の造成、更には、これに合せて港湾、道路、鉄道こういった動脈的な輸送設備の建設、工業用水の確保、こういう問題は、第1に考えなければならぬところであります。しかし、かなりの点まで業績が上っていると思います。むしろ今私達はこの問題について、今一度反省すべき段階に来たように思っております。例えば横浜における工業化というものは限界にきてはいないだろうか、こういうことであります。この間も市議会で横浜市を富ませるためには、財源を豊かにしなければならない、財源を豊かにするためには、工場誘致を行って、固定資産税を会計いただくとか、第2次産業から生ずる色々な利益を、市民に与えろとか、そういうことを考えねばならない。飛鳥田市長は、もっと積極的に工業化の方向を進めるべきだという議論がありました。私はその方にこういう風に申し上げたのであります。工業化ということを進めることに、私は異存はありません。そして、私も今申し上げましたように、都市力の基本構造を強化するという方策はとるつもりです。

だがしかし、それには自からなる限界があるのではないだろうか、例えば水の問題であります。今まで横浜は道志川の水系の水で充分に間に合っておったわけでありまして、従って、水がジャブジャブ溢れる程あるのであれば、今後工

場を呼んできて工業用水を提供してもよろしいわけです。しかし、今は先程申し上げたように、怒濤のように入ってくるベッド・タウン化の住民、160万に対して、水は足りないであります。止むなく相模川から取水工事をいたします為に、今大工事を突貫工事でやっております。これに要する費用は180億であります。しかし180億かけて相模川の水をもってきても、それでも計算によりますと今の人口増からいたしまして4年。若し早ければ3年以内には、これをのみ干してしまうのであります。止むなく、次は酒匂川、更には富士川にまで取りにゆかなければならない段階になっています。ところが河野氏が発表いたしましたあの計画は実は私の処から出ているのであります。300億以上のお金を横浜市の自治体がどうやって捻出できるだろうか、できる筈はありません。若し300億の経費を捻出することができたら、もっといゝ仕事ができます。

今180億の投資でさえ、横浜市の水道は傾きかけているのでありますから、それは不可能であります。だとするならば、やっぱり水はもう捨てる程ジャブジャブ出るという観念ではなしに、今は水は貴重品であって、水源は限定されているのでありますから、この水源の中で、160万市民の水の使用量は、これこれ、余ったものはこれこれにと、余ったものの範囲内でしか、工業用水を使う工場というものを誘致できないのではないだろうか。若しこれを誘致してゆけば市民の分をみんなくってしまうのでありますから、断水をしなければなりませんし、その市民に対し、断水をしないためには、富士川まで水をとりにゆかなければなりませんし、富士川まで水を取りにゆけば300億のお金がかかるのでありますから、その300億は、再び市民の皆さん方にかゝってゆかざるを得ないのであります。おのずから、工業化の限界は即ち、水源の大小、こういうものゝ側からも限定がでてくるのではなからうかと思ひます。或いは道路の問題もそうであります。今私達は、いくつかの横浜市の経済力の及ぶ範囲で、

高速道路，或は産業道路，そういうものを考慮いたしております。後で申し上げますが，そういう横浜市の財政力の及ぶ最大限度の道路を作ってゆく。しかし，その道路というものの，運び切れない，運ぶことのできる以上の，貨物や人を道路にあふれさせるような工場を横浜市で呼んでくるとすれば，即ち住民は，トラックとトラックの間を，申訳なさそうに歩きまわるといふ以外は許されなくなります。

都市の主人はあくまでも住民であります。その都市の主人であるべき住民がトラックとトラックの間をチョロチョロと神経をいらだたせながら走り抜けなければならないようなことは，私としてはできません。従って，そういう都市力を傾けた最大限度の道路というものの計画によって，おのずから誘致すべき工場の限界というものがでてくるのではないだろうか。主客を転倒させてはならぬのであります。私はこう思うのでありまして，都市力の基本構造の強化，この点について，今までの市長さんがかなりの業績をお上げになっいらっしゃる，この方向を私は進めますが，しかしおのずから限界がそこにあるということの反省をもたすべき時期が来ている，こう私は思っています。ようやく横浜市もヨーロッパの都市並になってまいりました。ヨーロッパの都市にまいりますと，水なども非常に貴重品でありまして，水道なども使用量に応じて料金体系が，料金が上ってゆく，こういう方法をとっております。なるほど海の水を真水にして，工業用水として，提供するような考え方もありますし，又汚水から真水をとって，工場に返すという方法もあります。それらの問題も，当然研究をし，実用化してゆく為に努力をしなければなりません，しかしそれで市民の水需要が解決する程，そんなに都市人口は少ないのであります。今私達のこの都市は160万とは申しますが，過大都市現象を完全に呈している，こういうことであります。その過大都市現象の上に，もう一つ無鉄砲な，むやみ

やたらな工業化ということによつて，弊害を生ぜしめるという意志は私にはございません。千葉市をご覧いただきますと，川鉄がやつてまいりました。川崎製鉄ですが，これによつて，千葉市の損益計算はどうなるのだろう，これは立教大学の藤田武夫先生のごく大ざっぱなご計算であります，結果はマイナスであります。

(8) 都市環境の整備 先ず道路網から

次に都市環境の整備であります。この都市環境の整備ということは，非常に重要であります。私はここに重点を置きたいと考えています。即ち都市環境の整備をいたします為には，横浜市人口の将来を，ある程度測定をしなければなりません。その人口測定を，私達は考えてみまして，大体横浜市の今の市域で，適正な人口限度は約300万位だろう，こう考えております。そして大体昭和50年迄に215万，昭和65年までに280万という人口ならば，私達はかなり充分な都市環境の整備をしてゆくことができるだろうと思つて居ります。こう考えまして，くどいようですが，大体横浜市の地域に照し合せて人口の限度は300万，そして50年迄には215万，昭和65年までには280万位に押えてゆきたい，そして都市環境の整備をしてゆきたい，こういう考え方があります。都市環境の整備と申しますのは，もう少し具体的にいえば，都市内の交通輸送設備の整備があります。ご覧のように，今の横浜市内の交通輸送設備というものは，自然発生的なものに過ぎません。ここに人間の意志が加わっているとは，ちよっといえないのであります。この都市内の運輸交通設備ということには，2つの問題点がなければいけないだろうと思います。1つは通過交通をどう捌いてゆくか，東京から関西に向つてゆく自動車或は東京から横須賀に向つてゆく自動車，即ち横浜の中心部は素通りという自動車であります。

主としてこれは工場経営にからむことだろうと思います。先般も私は申し上げたのでありますが、根岸の埋立に8社の大会社が土地を買われて進出を計画し実現しておられる。この8社の方々がお集りになられました際に、私は高速道路も産業道路も作ります、だがそれはうぬぼれて載いては困るのでありまして、貴君万の工場から出て参りますマンモスのようなトラック、或いは貨物、そういうものから横浜市民を守るといふ、そういう害悪から横浜市民を守るといふ意味でできるだけ大きな道路を造って貴君方に通つて載きましょう。市民はそれと無関係に、自分達の生活ができるように。こういつたのでありますが、同じ道路を造るにいたしましても、高速道路を造るにいたしましても、産業道路を造るにいたしましても、それはこれだけモンスター化いたしました大工場の害悪から横浜市民を守るといふ意味で道路を造る、こういう風に私は考えております。そうした高速道路として、今私達が考えておりますことは、先ず第1に東名高速道路であります。東京から名古屋に向っている道路、これは国がやるわけであります。それから第3京浜国道これも公団がいたす道路であります。しかし、これは横浜市のかかなり重要な道路となることは疑いありません。私達はこの道路に横浜市内の色々な貨物をそぎ込むことによつて、横浜市の工業基盤の強化にもし、同時に市民を守ることにもできるだろう。こう考えております。

従つて、いくつかのインターチェンジをこれにつけます。同時に又、羽田からその青木橋まで、高速道路が道路公団の手によつて造られる計画ができております。県の副知事をしておられました安井君が、この常務理事になられて、これを担当されるといふので、かなり緊密に、まあ元々仲良うございますので、連絡を取つて、今進めておるつもりであります。

しかし青木橋で止まってしまうては、何んにもなりませんので、これを一部第

3道路に流入をさせ、一部は横浜市内を通す。しかし横浜市内の何処を通すかが、かなり問題になつております。しかし、いずれにもせよ、これを通して磯子、根岸の埋立に導入をいたしませんと、磯子、根岸から出てくる貨物を捌きようがありません。そして市民は何人かひかれて死んでしまう。これではいかんです。同時に又、本牧の埋立と関連性をもたせなければなりません。今私達は、実は夢のようだと皆に笑われているのでありますが、この羽田からやってまいります高速道路を、小野町のところで曲げて、小野町のところに分岐点を造つて、日東化学の前を通つて中の島に渡し、防波堤の上を通して、本牧へ導入するといふようなことを、実は策定をいたしまして、計算をいたしておる最中であります。横浜の防波堤の上を通る、上といつてはおかしいですが、あそこを道路にして参りますと、舟の通るところだけをサスペンションブリッジにして、丁度サンフランシスコにありますような橋にしまえばよろしいわけではありますが、比較的土壌買収の費用もかゝりませんし、近道でもありますし、本牧の埋立がそれだけ経済性を発揮するだろうといふことで、実はそうしてみたいと考えております。横浜市の重要な助言者であります鮫島博士などは、どうも飛鳥田さんはハヤリに眼をくれて困るといって、そんなことはお考えにならん方がいゝでしょうと言ひお話をなすっておられましたが、まだまだもう少しこの点については調査をしてみるつもりであります。こうして若し海の上を通せば、本牧と羽田の高速道路との連絡、それから根岸、磯子の埋立と第3道路、高速道路との連絡、そして第3道路、工業道路という基幹的なものができてくるわけがあります。今日実は地図をもつてきておりませんでした、同時に横浜市の周辺に一つの環状道路を造っていきたい、こういうようなことで、大体基幹的な産業道路的な計画はよろしいのではないかと考えております。そういうことによつて、トラックその他の通過交通がもし捌けてゆくと

いたしますならば、後は横浜市内の我々が自動車に乗って歩くこの道路であります。これを再整理する。このことについては、計画局その他が非常な関心をもってくれているわけでありまして。ほゞ皆さん方にもご了解を戴けるプランだろうと実は考へております。

(9) 都心の再開発をどうするか

こういう形で都市内の交通運輸設備の整備、こういうことが若しできるといたしますならば、更に2つの問題がでて参ります。1つは都心部の再開発であります。更には新しい市街地の開発、この2つの問題点がでてくるだろうと考えております。そしてその何れをとり、何れを行ないますかについても、先程私が申し上げておりますように、そこに住んでいる住民の生活環境を向上させるということに重点を置いたやり方をする、こういう風に考えております。

ちょっと抽象的で恐縮であります。時間がありませんから、そういう申し上げ方でご勘弁戴きます。漆間君もそこにみえておりますから、同君の方からこまかい話ができるかも知れません。更にそうした都市環境の整備と並行いたしまして、文化的な諸設備を進めなければなりません。市民劇場とか、近代美術館とか、或いは博物館、市立劇場、自然動物園等、こういうものが、私はどうしても、なければならんと思っております。およそ横浜市といわず、東洋の都市というものは、都市といえるだろうか、こういう疑問を私は常にもっております。

都市という限り、そこに住む住民の意志が現れていなければなりません。ところが、そこに住む住民の意志というものが感ぜられずに、ただごちゃごちゃと集まっている、単なる群落到しか過ぎないのではなからうか、こういうことでありまして、少くともそういう集落から、みずから治める都市という名に変わろうとする限り、市民の共通の財産というものが到る処に散りばめられなけれ

ばならないのでありまして、美術館、博物館、市立劇場、動物園、自然植物園、こういうようなものを散りばめるといふことは、決して贅沢ではありません。そういうようなことを申し上げておきたいのであります。以上のような形で進めたいと考えております。そこでそれでは都心部の開発、再開発、新市街のいわゆる郊外部の建設、こういう問題を、どこから手をつけるかということになるかと思ひます。私は、ごく簡単に申し上げて、横浜市の先ず最初に行ふことは、用途別の地域指定だろうと思ひています。こゝは商業地区、こゝは住宅専用地区、こゝは工業地区、準工業地区、というような形で、用途別の指定をいたします。そして、その用途別に反した建築その他は一切許さない、こういう立場から、一番大まかな処から、都市の方向というものを決める。こういうことが早道のように思ひます。そして、その用途別指定が守られてゆく限り、守らせるのでありますが、それに合せた諸設備を私たちがそこに実施をしてゆくということが必要だと考えます。そういう意味で、先ず最初に、用途別地域指定というところから、横浜市は手をつけ始めた、こういう風にご了解を戴ければ幸であります。そうした非常に大まかな、此処は工場を建てゝはいけませんぞ、此処は商業地区ですぞ、此処は商業地区と住宅地区の混合地区ですぞ、という形にするところで建築規制を行なつてゆきます。そうする形の中で、色々な施策を我々がやれるだろう、こう考えているのでありまして、その色々な施策というものを、こゝに一々申し上げておりますときりがないわけでありまして、そういう点で省略をさせて戴きますが、たゞ郊外地区の場合は、大体その地区に入つてまいります人口の計算もできますし、或る程度人口抑制もできます。そして色々な諸設備をするということもできます。だが一番問題なのは、現在あります都心部の再開発であります。この都心部の再開発に対して、実は私達横浜市のもっています力というものは非常に僅少でありまして、残念だと

考えております。しかし今私はその中で一つの希望を託しておりますことは、横浜市が、まだまだ関内牧場といわれるような、未利用の部分が多くございますので、これに対して、防災街区の設定をしてゆくというようなやり方で、或る種の都市建設というものをリードをすることができるのではないか、こんな風に考えているわけでありまして。私もよく存じませんが、リスボンなどに行つてみますと、リスボン市は、一定の区画を限つて、一切の都市計画をするのであります。そして、こゝは何坪で、こゝには教会を建て、こういう形の教会を建てる。此処はマーケット、こういう構造です。これには、一軒一軒の設計までしてしまひまして、1ブロックを石膏でもつてキチット作つてしまうそうです。模型をつくって、皆さん方にご覧に入れて、貴君がお買いになりたいなら、こゝはもう教会以外には買えませんよ、できませんよ。しかもお造りになる場合は、こういう形の教会を造って下さい。貴君が此処をお買いになりたいなら、デパート以外は駄目です。そしてこういう形のデパートを造って下さい。こういう風に、それ以外のものを許さないそうです。従つて、5年なり10年なり後には、その地区は、市長室に置いてあります石膏細工と同じ形の市街ができる。こういうことをやっておるそうです。日本では、まさかそれはできません。やりたいのでありますが、できません。そこで、私はやはり防災街区という形がよからう、こう考えて、今市役所のお隣に、防災街区設定をいたしまして、この土地の地主の方々のご協力を戴いて、試みてるつもりであります。即ち100坪もっていらっしゃる、200坪もっていらっしゃる、10坪もっていらっしゃる、という方々に防災街区共済組合の組合員になって戴きまして、土地をみな出して戴きます。そして、それを、全部を1つのものとして、ビルを建て、ゆくわけですね。大体今あそこは8階建てのビルを建て、そして関内駅前に、かなり大きなバス・ターミナルを置き、そして8階

が卒直にいて、そのショッピングセスターになるようなことを、実は考えているわけでありまして。横浜市も丁度あそこに土地をもっておりますので、土地を出して組合員になり、そして今庁舎が狭うございますから、八階建てをお建てになるなら11階を建て、載いてそして上の3階だけは、市役所の庁舎にしよう。ショッピングセンターの上に、市役所があったって、別にかまわないわけでありまして。役所という言葉が大嫌いだとよく私はほうほうでいいますが、役所でなく市民の事務所でいゝはずであります。役所という限り、お願いを申上げる市民といった下々のものと、偉いお役人がいるという形になるのであります。市役所という観念を棄て、市民の事務所という観念になるとするならば、ショッピングセンターの上に市役所があったって、一向に差支えございません。そんな形で、あそこに1つのモデル的なものを現出し、その事実をみて戴いて、横浜市民にあの調子がいゝという形で、あっちこっちでマネをして戴き、そして、その設計その他にも私達はかなりのお手伝いをして、計画のプランは市役所からもち出したって結構でありますから、いずれにもせよ、そういう形で都心部の再開発をやってゆく。こんな風に考えております。

色々お話ししたい点がたくさんありますが、しかしもう時間がないようでございますし、甚だ長しゃべりをしてしまひまして、最初は30分位だと高見君にいて、後できっと帰りに、だから君はオジャベリだとおこられるに違いありません。とにかくいずれにせよ、皆さん方に充分ご検討戴きたいと思つて、お話を始めながら、時間的な制限から、断片的なことをしか申し上げられなくて残念であります。くりかへして申し上げますならば、横浜市の都市としての性格を、どう設定してゆくかということを、充分お考え戴かなければなりませんし、そうした都市を造ってまいりますには、都市力の強化、基本構造の強化、或いは都市環境の整備、こういう点に重点を置かなければならないと思ひます。そして、その中で、都心部の再開発、郊外部の新しい都市造り、都市内の交通運輸設備の整備、こういうようなものに議論を集中してゆきたい、こう考えておる次第でございます。